



デイリー・ジーザス・ニュース #313

金曜日...苦悩と贖罪の日

イエスの三段階のローマ裁判

ローマ裁判の第一段階：ピラトの前で

ヨハネ 18:33-38 (並行テキスト: マタイ 27:11-14; マルコ 15:2-5; ルカ 23:2-5)

=====

「そして彼らはイエスを訴えて言った。」この男は我が国を滅ぼそうとしている。皇帝に税金を納めることを拒み、自分は王であるキリストだと自称している。」

33そこでピラトは宮殿に戻って、イエスを呼び寄せた。イエスが総督の前に立つと、総督はイエスに尋ねた。」あなたはユダヤ人の王ですか。」

34「「そうです、あなたの言うとおりです」とイエスは答えました。」「あなたは自分の考えでそう言っているのですか、それとも他の人が私についてあなたに話したのですか？」

35ピラトは答えた。」私はユダヤ人なのか。あなたの同胞と祭司長たちがあなたを私に引き渡したのだ。あなたは何をしたのか。」

36イエスは言われた。」わたしの国はこの世のものではありません。もしそうなら、わたしの僕たちは、ユダヤ人の指導者たちがわたしを捕らえるのを阻止するために戦ったことでしょう。しかし、わたしの国は今、この世のものではありません。」

37「それでは、あなたは王なのですか」とピラトは言った。

イエスは答えられました。」あなたは私を王だと言っている。しかし、私が生まれ、この世に来たのは、真理を証しするためである。真理から生まれた者は皆、私の言うことを聞き入れる。」

38「真理とは何か？」とピラトは言い返した。

こうして、イエスは再びそこに集まっているユダヤ人たちのところへ出て行き、祭司長たちと群衆にこう告げた。「彼に訴える根拠は何も見つかりません。」

^M祭司長たちはイエスを多くの罪で訴えた。^{MT}祭司長たちや長老たちから訴えられている間、イエスは一言も答えなかった。^Mそこで^{MT}ピラトは再びイエスに尋ねた。

「彼らがあなたに対して立て続けている証言が聞こえないのですか？ 答えないのですか？ 彼らがあなたをどれほど多くの罪で告発しているか、ご存じですか？」

イエスは、ピラトが非常に驚いたことに、一言も返事をされなかった。

彼らは言い張った。「イエスはユダヤ全土で教えを説き、民衆を扇動している。ガリラヤから始まって、ここまで来たのだ。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	プラエトリウム: ローマ総督ポンティウス・ピラトの宮殿
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階: 受難週
	E. 金曜日: 苦悩と贖罪の日
	イエスの三段階のローマ裁判
タイトル	ローマ裁判の第一段階: ピラトの前で

今日の朗読では、イエスはローマの行政長官でありユダヤ地方の総督でもあったポンティオ・ピラトから初めて尋問を受けました。サンヘドリン (ユダヤ最高評議会) はイエスをピラトのもとに連れて行き、ローマの敵として死刑判決を受けさせ、十字架刑に処すつもりでした。ユダヤの権力者たちには犯罪者を処刑する正式な権限はありませんでした (殉教者ステファノのように、時には権限があったものの)。彼らの処刑方法は十字架刑ではなく、石打ちでした。

ピラトの前で彼らがイエスに申し立てた告発は、裁判におけるユダヤ人側の立場とは異なっていたことがわかります。これはまたしても正義の茶番劇でした。ユダヤ人のイエスに対する扱いとピラト側の扱いの対比は鮮明でした。サンヘドリンはイエスを汚物のように扱いましたが、ピラトはイエスについて知れば知るほど、イエスを尊敬するようになりました。キリストの主張を検証する際には、少しの客観性が大きな役割を果たします。

サンヘドリンがイエスに告発した罪状は虚偽であり、ピラトはそれを容易に見抜いた。彼らは、受難週の火曜日に指導者たちがイエスに尋ねた、皇帝への税金納付に関する質問に対するイエスの答えを誤って引用したのだ。イエスは実際には、皇帝への税金納付を推奨していた。『**皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。**』

ローマにとって、王を名乗ることは極めて重大なことであり、ローマ皇帝の権威に服従せず、皇帝に仕えない王は、ローマにとって極めて重大な存在でした。ローマの政策は、地方の王や権力者が征服した地域において、地方の下位の権力者がローマに全面的かつ無条件の忠誠を誓うことを確認した上で、彼らをその地位に留めておくというものでした。したがって、イエスの王権の性質はピラトにとって重要な問題でした。

『**この世のものではない**』と言われたことは、ピラトにとってそうであったように、私たちにとっても重要です(ヨハネ18:36)。この言葉はピラトに、イエスがローマにとって脅威ではないことを示しました。そして、私たちが生き、動き、存在する王国が超越的な性質を持っていることを示しています。イエスの統治は『**この世のものではない**』ので、この世に限定されるものではなく、神の遍在性と同じように普遍的なものです。

ここでイエスがピラトにご自身について証言する際に、尋問している様子が見て取れます。役割が逆転しています。ピラトがイエスを尋問するのではなく、主が会話を主導し、ピラトを尋問しました。これは、イエスが権力者たちの前で証言する際に、聖霊の力と知恵がイエスに働いたもう一つの例です。

これは、イエスが私たちに約束されたのと同じ力です。ピラトに言われたように、イエスは真理を証しするために生まれ、命が危険にさらされている時でさえ、あらゆる機会を捉えて証しをしました。私たちも、イエスの証人として仕えるために、聖霊によって上から生まれてきたのです。

ピラトはイエスとの会話に深く感銘を受け、ローマ裁判の段階でイエスの無罪を宣言する最初の公式宣言を行なった。イエスに罪がなかったというこれらの公式宣言は、イエスの死の意味を理解する上で、そしてローマ帝国における初期教会の証しにとって極めて重要である。これらの点については、今後のデイリー・ジーザス・ニュースでさらに詳しく考察する。

ピラトは、現代の多くの人々と同様に、客観的な真実の存在について懐疑的でしたが、イエスの人格の誠実さと本質的な真実性を認めていました。イエスの言葉は信頼できるものでした。イエスに根拠のない非難を浴びせ続けたユダヤ人指導者たちとは、なんと対照的な見解でしょう。ピラトにとって、サンヘドリンがイエスに対して偏見と不当な態度を取っていることは、ますます明らかになっていきました。

ピラトはこの混乱に巻き込まれることを望まなかった。イエスがガリラヤ出身だと知ると、すぐにその機会を捉えて、イエスをヘロデ・アンティパスのもとへ送り、裁判を行なわせた。ヘロデはガリラヤ地方の責任者だったからだ。ピラトはこれで罪を逃れたと思ったが、事態はそうはならなかった。その間、イエスはローマでの裁判の第二段階を受けるため、ヘロデのもとへ向かっていた。

応用：

イエスはあらゆる機会を用いて証しをし、ローマの人々を導き、ご自身を信じる信仰へと導いていました。これは素晴らしいことではありませんか。イエスは愛をもって真理を語り、ご自身の必要を忘れておられました。これは神の栄光のもう一つの表れでした。

あなたは証しをする機会を逃しませんか？イエスのように、聞くべき人々に愛をもって真実を伝えるために、自分の必要を後回しにしていますか？あなたの人生は、この聖書箇所にあるイエスの模範とどのように似ていますか？

一方、ピラトの人たらし的な性格は、この裁判の第一段階で既に現れていました。彼はイエスが無罪であると断定していました。それで裁判はそこで終わるべきでした。イエスは釈放されるべきでした。ピラトは、それが正しいと分かっているにもかかわらず、自分の臣下であるユダヤ人の指導者たちの意見を覆す勇気がありませんでした。彼は弱虫でした。ピラトのこの性格は、ローマでの裁判が終わる頃には、非常に明白になるでしょう。

人々を喜ばせたいという欲求はあなたの行動にどのような影響を与えますか？

この点において、あなた自身とピラトの間に何か類似点が見られますか？

それについて何をする必要がありますか？